

学校教育目標	◎精いっぱい学習する子 ○人のためにつくす子 ○すすんで体をきたえる子	【目指す学校像】	・子供たちにとって学びがいのある学校 ・教職員にとって働きがいのある学校
		【目指す児童・生徒像】	・心身共に健康な児童 ・創造性に富んだ児童 ・人間として調和のとれた児童
		【目指す教師像】	・人権感覚が豊かな教師 ・創造性に富んだ教師 ・チームを意識した協調性のある教師 ・絶えず研究と修養に励む教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	「分かること・できることが楽しい」 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせ、主体的に学びに向かう力を育成する。	全ての児童へ基礎・基本の確実な定着を目指し、分かりやすい指導を工夫・改善する。	全ての児童に基礎・基本が定着するよう、学習環境を整備し、個に応じた指導方法を工夫・改善する。	4 教室の学習環境を整備した…90%以上の教員 3 教室の学習環境を整備した…80%以上の教員 2 教室の学習環境を整備した…70%以上の教員 1 教室の学習環境を整備した…70%未満の教員	4	4 授業が分かりやすい…95%以上の児童 3 授業が分かりやすい…90%以上の児童 2 授業が分かりやすい…80%以上の児童 1 授業が分かりやすい…80%未満の児童	4	余計なものを置かず、学習に集中できる環境を整備している。課題、まとめ、振り返りを明確にした授業を行っている。	教員が熱心に指導している様子が見られた。十分に達成されている。	A	机回りの整理整頓の指導、教室環境の整備、分かりやすい授業展開を引き続き行う。
		デジタル教科書、タブレット端末等を活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進する。	ICTスキルステップ表」を基に、タブレット端末をはじめとしたICT機器を学習に有効的に活用する。	4 ICT機器を学習に活用した…90%以上の教員 3 ICT機器を学習に活用した…80%以上の教員 2 ICT機器を学習に活用した…70%以上の教員 1 ICT機器を学習に活用した…70%未満の教員	4	4 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…90%以上の児童 3 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…80%以上の児童 2 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…70%以上の児童 1 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…70%未満の児童	4	意見や結果を共有するために、ICTを活用した。書面カメラを有効活用している。一人1台のタブレットを日常的に活用している。	授業の置いてICTがよく活用されている。校内研究でも活用の研究をしていることが素晴らしい。	A	デジタル環境を活用し、個別最適な学び、協働的な学びを実現し、更なる効果的な活用を研究する。
		主体的・対話的で深い学びを実現する授業を工夫し、自らすすんで学習に取り組む児童を育成する。	授業において、児童相互の学び合い活動を取り入れ、自らすすんで学習に取り組ませる授業を実践する。	4 児童相互の学び合い活動を実施…80%以上の教員 3 児童相互の学び合い活動を実施…70%以上の教員 2 児童相互の学び合い活動を実施…60%以上の教員 1 児童相互の学び合い活動を実施…60%未満の教員	4	4 話し合い時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…90%以上の児童 3 話し合い時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…70%以上の児童 2 話し合い時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…70%以上の児童 1 話し合い時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…70%未満の児童	3	考えの交流や話し合い、自分の思考を整理する時間を取っている。ペアワークやグループワークを授業の中に取り入れた。	授業において児童が小グループでよく話し合っている様子が見られた。	A	主体的・対話的な深い学びの実現のため、考察する時間・意見や考えを交流する時間を確保する。
		道徳授業を通して、一人一人の良さを認め、互いに必要とされる実践がもてる学級経営を実践する。	道徳授業を通して、一人一人の良さを認め、互いに必要とされる実践がもてる学級経営を実践する。	4 お互いを認め合う道徳授業の実施…95%以上の教員 3 お互いを認め合う道徳授業の実施…90%以上の教員 2 お互いを認め合う道徳授業の実施…80%以上の教員 1 お互いを認め合う道徳授業の実施…80%未満の教員	3	4 思いやりや心をもって行動している…95%以上の児童 3 思いやりや心をもって行動している…90%以上の児童 2 思いやりや心をもって行動している…80%以上の児童 1 思いやりや心をもって行動している…80%未満の児童	3	他者の考えと比較しながら、様々な考え方に触れさせている。児童の考えを否定せず思ったことを言えるようにしている。	道徳授業により思いやりや心の育われてきている。道徳授業地区公開講座の授業でも児童がよく講議座の授業でも児童がよく講議座の授業を実践している。	A	「考え・議論する道徳」の授業の実現を目指し、互いの考えを尊重しながら意見を交流する授業を実践する。
豊かな心	「みんなと仲良くできて楽しい」 道徳教育の充実を図り、人権尊重の精神を醸成し、共に認め高め合い、学校は楽しいと実感できる児童の育成を目指す。	いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く対応し、安心して通える学校にする。	いじめ防止対策冊子の活用し、学校いじめ対策基本方針に基づいて児童への指導を行う。	4 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…90%以上の教員 3 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…80%以上の教員 2 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…70%以上の教員 1 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…70%未満の教員	4	4 学校で安心して生活できている…95%以上の児童 3 学校で安心して生活できている…90%以上の児童 2 学校で安心して生活できている…80%以上の児童 1 学校で安心して生活できている…80%未満の児童	2	道徳等を通していじめは絶対に許されないことを伝えていく。トラブルがあったときは早期発見、早期解決にあつた。	児童・教職員共にいじめに対する理解が深まっている。児童の回答が改善されるように一層努力が注ぎ込まれている。	B	いじめに関する知識と実践力を高めるために、生活指導夕会を活用して研修を重ねていく。また、いじめ対策委員会と未然防止と早期解決に向けて、様々な児童の情報を共有し理解を深めていく。
		人や自然、文化との関わりを通して、本物と出合い自尊感情や自己有用感を高める。	縦割り班活動の充実を図り、児童同士が実体験を伴う交流を行う。	4 異学年交流活動を含めた指導の実施…全教員 3 異学年交流活動を含めた指導の実施…95%以上の教員 2 異学年交流活動を含めた指導の実施…90%以上の教員 1 異学年交流活動を含めた指導の実施…90%未満の教員	4	4 学校や学級の仲間と接している…95%以上の児童 3 学校や学級の仲間と接している…90%以上の児童 2 学校や学級の仲間と接している…80%以上の児童 1 学校や学級の仲間と接している…80%未満の児童	3	縦割り班活動や委員会・クラブ活動で異学年で活動できるようグループを作るときに工夫をしている。	異学年交流をすることはとても良い。今後も継続して行ってほしい。	B	縦割り活動、1年生を迎える会、6年生を送る会他、「校外学習」「芸術鑑賞教室」や「英語村」等の本物と出会う体験を充実させる。
		心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成を目指す。	健康教育の充実を図るためにグッドモーニング60分の取組を年間を通して行う。	4 健康教育活動の実施…90%以上の教員 3 健康教育活動の実施…80%以上の教員 2 健康教育活動の実施…70%以上の教員 1 健康教育活動の実施…70%未満の教員	4	4 安全・安心や健康についての知識を活かしている…95%以上の児童 3 安全・安心や健康についての知識を活かしている…90%以上の児童 2 安全・安心や健康についての知識を活かしている…80%以上の児童 1 安全・安心や健康についての知識を活かしている…80%未満の児童	3	グッドモーニング60分に取り組み、一日の生活の実態を把握し、健康の保持増進のための方法を示している。	生活習慣の改善は大切である。家庭も巻き込んだグッドモーニング60分をさらに進めよう。	B	Googleフォームへの入力になり、全体の傾向をつかみやすくなった。児童一人一人の取組が見えづらくなっているので、より良い方法を模索する。
		一人一人が体力向上を意識できる、体育学習の充実を図る。	コーディネーショントレーニングを含む体力向上へ向けて実践を体育の授業で行う。	4 体力向上に関する指導を20回以上実施…90%以上の教員 3 体力向上に関する指導を20回以上実施…80%以上の教員 2 体力向上に関する指導を20回以上実施…70%以上の教員 1 体力向上に関する指導を20回以上実施…70%未満の教員	1	4 体を動かしたり遊んだりしている…95%以上の児童 3 体を動かしたり遊んだりしている…90%以上の児童 2 体を動かしたり遊んだりしている…80%以上の児童 1 体を動かしたり遊んだりしている…80%未満の児童	2	コーディネーショントレーニングを指導し、様々な運動に適應できるようにしている。期間を決めて集中的に取り組んでいる。	運動が好きになるような取組を続けてほしい。コーディネーショントレーニングの取組を取組指標として設定してほしい。	B	体育学習の充実を図るのであれば、体づく運動の研修や授業観、ワークシートの共有、他領域への展開が有効だが、校内研究が必要。目標や方策が授業外に絞る。
健やかな体	「心も体も弾んで楽しい」 からがだ計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成を目指す。	自らの健康を適切に管理するとともに改善能力を培う。	元気アップガイドブックの活用した取組を年間を通して行う。	4 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…90%以上の教員 3 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…80%以上の教員 2 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…70%以上の教員 1 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…70%未満の教員	4	4 食事や栄養についての知識を生かしている…95%以上の児童 3 食事や栄養についての知識を生かしている…90%以上の児童 2 食事や栄養についての知識を生かしている…80%以上の児童 1 食事や栄養についての知識を生かしている…80%未満の児童	1	体力テスト期間に元気アップガイドブックの項目を児童にチェックさせた。定期的に活用し睡眠時間や食事について学習し生活習慣の改善を行っている。	児童の健康を増進するために、元気アップガイドブックを活用した取組を充実させるべき。数値目標は再検討。	B	児童の実態や体力テストの結果を体育委員会が話し合い、元気アップガイドブックを参考に運動イベントを開催する。体力テストの前夜や結果返却後に、元気アップガイドブックに載っている運動を選択して取り組む授業を行う。
		自己有用感を感じる機会を通して、自分には得意なところがあると感じる児童を育成する。	児童が自分自身を見つめ、自分の得意なところを見付ける指導を行う。	4 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…90%以上の教員 3 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…80%以上の教員 2 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…70%以上の教員 1 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…70%未満の教員	4	4 自分の得意なところは何かにについて考える…95%以上の児童 3 自分の得意なところは何かにについて考える…90%以上の児童 2 自分の得意なところは何かにについて考える…80%以上の児童 1 自分の得意なところは何かにについて考える…80%未満の児童	2	自分の目標を考えた。個性を伸ばす指導ができていた。児童にも自分の得意なことを意識させたい。数値目標は再検討。	児童に目標をもたせ、個性を伸ばす指導ができていた。児童にも自分の得意なことを意識させたい。数値目標は再検討。	B	学級での当番、係活動の他、委員会活動、縦割り班活動等で、目標・めあてをさせ、自己有用性を高める指導を行う。
		キャリア教育を推進し、自分の将来に対して考えさせる。	自身の成長や変容に気付くことができるようにキャリア・パスポートの活用を図る。	4 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…90%以上の教員 3 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…80%以上の教員 2 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…70%以上の教員 1 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…70%未満の教員	4	4 自身の将来について考えることがある…95%以上の児童 3 自身の将来について考えることがある…90%以上の児童 2 自身の将来について考えることがある…80%以上の児童 1 自身の将来について考えることがある…80%未満の児童	2	学期ごとにあてて立て、それを振り返っている。キャリア・パスポートで自身の日常を振り返らせている。	児童一人一人の将来を見据えた指導がなされている。児童が自身の将来を考える機会を増やしてほしい。数値目標は再検討。	B	高学年だけでなく、低学年のうちから自分の目標、将来の自分自身を考えた指導を検討する。
		社会への適応性、社会貢献力の育成を図る。	学級や学年、家庭や社会の中での生活と、授業を関連させ、適応性と社会貢献力を養う指導を行う。	4 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…90%以上の教員 3 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…80%以上の教員 2 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…70%以上の教員 1 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…70%未満の教員	4	4 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…95%以上の児童 3 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…90%以上の児童 2 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…80%以上の児童 1 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…80%未満の児童	2	学級活動として取り組ませ、自分自身の生活について振り返りをしながら生活の改善に取り組ませている。	児童に実体験をさせる取組を増やし、将来に生かせる生きる力を育ててほしい。数値目標は再検討。	B	学級や委員会、クラブ活動等で、児童が自ら企画したものをPDCサイクルで回し達成感を味わえるように、教員が調整し働きかける。